








2026年度（令和8年度）ふくやま文化ゾーン情報（予定）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ふくやま美術館 TEL(084)932-2345 〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●観覧料－所蔵品展／一般310円（250円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※特別展の観覧料は別に定めます。 ※所蔵品展・特別展ともに高校生以下無料 ホームページ 	特別展 小林徳三郎 福山が生んだ異才の洋画家、その豊かな軌跡 4月11日(土)～6月7日(日) 前期：5月6日(水・休)まで 後期：5月8日(金)から 小林徳三郎(1884-1949)は福山生まれ、大正期から1940年代にかけて活躍した洋画家です。東京美術学校(現東京藝術大学)卒業後、前衛洋画家集団であるフウザン会(1912-1913年)に参加し、さらに再興院展洋画部、萬籟五郎を中心とした円島会などに作品を発表しました。《鯛》《鯉》といった身近な魚を主題とした作品を数多く制作し、40代半ばからは、自身のこどもたちをモデルに描くようになりました。本展は、代表作《金魚を見る子供》(東京国立近代美術館蔵)をはじめ、新たに確認された作品を含む300点を超える作品・資料から小林徳三郎の画業を総覧する、初の大回顧展です。		特別展 「オバケ?」展 7月11日(土)～9月23日(水・祝) 古今東西、さまざまな呼び名で存在してきたオバケ。絵本や物語にさまざまな姿で描かれ、ふとした拍子に現れるオバケ。怖いオバケに怖いオバケ。会いたくないのに、ちとと会ってみたい。オバケは私たちの好奇心をくすぐる摩訶不思議な存在です。その名を聞いただけでワクワクするマジックワード「オバケ」を、規格外のクリエイションで楽しみ尽くす展覧会を開催します。日本美術におけるオバケの歴史、500冊のオバケ絵本など、オバケを探求し作品化する「オバケ」研究所が設立されるほか、「オバケ屋敷」「オバケ湯」「オバケに変身する「オバケ工場」など、親子で楽しむ企画も盛りだくさん。見て、感じて、知って、なる。新しさが満載の体験型展覧会です。		特別展 千住博展 －静寂の光、水の鼓動 10月3日(土)～12月13日(日) 緻密かつ雄大なスケールの滝や崖の作品で知られる日本画家・千住博(1958-)は、ニューヨークを制作拠点に国際的に活躍しています。千住の制作の根底にあるテーマは、時間や宇宙、伝統と革新などさまざまな、その画業は多岐にわたるモチーヴの変遷を経てきました。本展では《ウォーターフォール》をはじめ、生命の誕生や永遠の時の流れをテーマにした《湖畔に蜻蛉図》《湖畔初秋図》など、1984年から2023年までの作品26点を厳選してご紹介します。		特別展 新刀・東西の巨匠 虎徹と助伝 2027年1月24日(日)～3月22日(月・休) 前期：2月21日(日)まで 後期：2月23日(火・祝)から 江戸時代、都市形成に伴い二大作刀地となった江戸と大坂。双方を代表する名工、長曾祇虎徹と津田越前守助伝をとりあげます。江戸の虎徹は、明るく健全な刀作を特色とし、武家文化が色濃く反映した実用性と美観とを兼ね備えた刀剣で知られます。一方、大坂で活躍した助伝は地味な美しさと旬口の冴えに秀でた作風を確立し、町人文化に呼応するような華やかな作風となっています。本展では、両刀工の作例を通観し、東西で異なる刀剣の美意識や機能性、刀剣社会の違いを比較してお楽しみください。		第18回ふくやま子ども「生きる」美術展 2027年1月2日(土)～1月11日(月・祝)	追悼 松本コレクション －茶の湯の精華－ 10月4日(日)～30日(金)	第56回世界児童画展 8月1日(土)～9日(日)	秋季所蔵品展「絵本と芸術家」 9月26日(土)～12月13日(日)	冬季所蔵品展「ウチらのパワー！」 2027年1月2日(土)～3月28日(日)
ふくやま書道美術館 TEL(084)925-9222 〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●観覧料－所蔵品展／一般150円（120円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※高校生以下無料 ホームページ 	春の所蔵品展 「備後ゆかりの書家たち 一漢字」 4月3日(金)～5月6日(水・休)		夏の所蔵品展 I 「備後ゆかりの書家たち 一かな」 5月12日(火)～6月13日(土)		福山市美術展覧会 前期：6月17日(水)～21日(日) 後期：6月24日(水)～28日(日)		一緒にかく 古代文字展 8月1日(土)～8月16日(日)		ETOをかく 2027新春展 2027年1月2日(土)～1月17日(日)	ふくやま書道美術館 臨書展 2027年2月7日(日)～2月14日(日)	冬の所蔵品展 I 「生誕160年 壬一季の書画」 2027年2月12日(金)～3月28日(日)		
ふくやま文学館 TEL(084)932-7010 〒720-0061 福山市丸之内一丁目9番9号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●観覧料－常設展／一般310円（250円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※特別展の観覧料は別に定めます。 ※常設展・特別展ともに高校生以下無料 ホームページ 	特別企画展 パティントンの世界展 4月17日(金)～6月28日(日) マイケル・ポンドの児童文学作品『パティントン』シリーズは、1958年に最初の本が刊行されて以来、世界中で4000万部以上を売り上げ、ラテン語を含む多くの言語で翻訳されています。本展では、①原作の世界、②映画の世界、③アニメーションの世界、という3つの「パティントン」の世界をご紹介します。世界中の子どもや大人から愛される「パティントン」の世界を楽しんでいただける展覧会です。		夏の所蔵品展 II 「学校の先生 ー中国書画にみる教育者の姿」 7月3日(金)～8月23日(日)		秋の所蔵品展 I 「茶掛けの書」 8月28日(金)～10月18日(日)		秋の所蔵品展 II 「楊守敬が来た ー日本近代書人たちのまなざし」 10月23日(金)～12月13日(日)		冬の所蔵品展 I 「学びたい書 ー臨書するならコレ！」 12月24日(木)～2027年2月7日(日)		冬の所蔵品展 II 「生誕160年 壬一季の書画」 2027年2月12日(金)～3月28日(日)		
常設展 「福山市および近接市町ゆかりの文学者たち」井伏鱒二の世界」(通年)													
福山城博物館 TEL(084)922-2117 〒720-0061 福山市丸之内一丁目8番 ●開館時間／午前9時～午後5時（入館午後4時30分まで） ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末 ●入館料／一般500円（400円） ※（ ）内は有料20名以上の団体 ※特別展の観覧料は別に定めます。 ※高校生以下無料 ホームページ 	春季テーマ展 近現代の福山史 3月19日(木)～5月17日(日) 明治以降、経済・産業を活性化させた福山は、近代都市へと発展していきます。しかし、福山城天守を焼失する戦禍に見舞われました。そうしたなかでも福山は復興を成し遂げ、昭和41年(1966年)には市制50周年を記念し、「福山城博物館」の誕生を見るに至りました。この展覧会では、このように変貌を遂げた近現代の福山に焦点を当て、文書、古写真、絵図などの資料を通して紹介します。		企画展 「祈り」と「祭り」 5月21日(木)～7月20日(月・祝) 人々は、古来より神や仏といった絶対的かつ霊的な存在に祈りを捧げることで、自身や家族の願いを叶えようとしてきました。その行為は祭りとして外形化し、各地域に根付いていく中で文化として昇華されています。この展覧会では、そうした祈りについて、神道や仏教など、様々なかたちに着目して紹介します。加えて「左義長」や「はね踊り」、「二上り踊り」といった、福山ゆかりの祭りについても紹介します。		企画展 没後200年「阿部正精展～詩・書・画三絶～」 7月24日(金)～9月27日(日) 本年は、福山藩阿部家5代正精没後200年にあたる年です。正精は安永3年(1774)12月江戸で生まれ、30歳の壮年で福山藩主となります。その後幕閣への道を歩みはじめ要職を歴任し45歳で老中が就任します。そうした幕政に於ける活躍だけでなく、詩・書・画三絶と呼ばれるほどの文化人でもありました。絵画は実に細密で、油絵、天体と分野は多岐にわたります。菅茶山を取り立てた他、福山藩義倉を設立する等、後の福山に与えた影響は計り知れません。この展覧会では、そうした正精について、文書、絵画資料を中心に紹介します。		秋季特別展 福山刀剣物語 10月3日(土)～11月23日(月・祝) 日本刀は平安時代にその様式が定まり、日本を代表する武器です。折れず曲がらずを基本とし、時代に合わせて変化すると共に各地で刀匠が工房を構え発展してきました。その歴史はこの福山も同様でした。古くは鎌倉時代、備前から移住してきた初代助国(すけくに)一派が神辺御領(ごりょう)付近で作刀を始め、福山における刀剣の歴史は始まります。2代助国が大和伝の作刀技術を取り入れることで、この地域の刀剣文化は独特な進化を迎えます。大和伝と備前伝が混在する、いわゆる「芦田郡物(あしたごおりもの)」の登場です。この度は「芦田郡物」のルーツを探ると共に、鎌倉から現代まで福山、そして備後を中心とした刀剣の歴史を紹介します。		企画展 新収蔵品展 11月27日(金)～2027年1月24日(日) 福山城博物館は、甲冑・刀剣・藩主や城郭に関する文書等、寄付・寄託を多数受けております。このたびは、感謝の意を込めて、近年新たに収蔵した資料をご覧いただけます。		企画展 江戸時代の旅 2027年1月28日(木)～3月14日(日) 人々にとって旅行とは、日常生活から離れ、非日常を体験することといえます。目的は時代や立場により様々で、古くは食料の確保等、実生活に由来していましたが、江戸時代に入ると街道や宿駅といった設備や制度が整えられ、現在でいう「観光」、すなわち娯楽の側面が強くなりました。この展覧会では、現在の「旅行」に通じる江戸時代の旅について、絵画や工芸品、文書などを通して紹介します。		
福山市人権平和資料館 TEL(084)924-6789 〒720-0061 福山市丸之内一丁目1番1号 ●開館時間／午前9時30分～午後5時 ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●入館料／一般100円（80円） ※（ ）内は20名以上の団体 ※高校生以下無料 ホームページ 	企画展 「渡来人歴史館」展 4月19日(日)～6月28日(日) 日本の文化は独自に形成されたものではなく、縄文時代から水田稲作をなどの技術を甞した朝鮮半島からの渡来人が日本国家の原点を作ったと言えます。また、安土桃山時代には朝鮮半島から多くの技術者が連れてこられ、日本の焼物技術の発展に貢献しました。しかし明治以降日本が朝鮮半島を植民地化した200万人以上の人々が日本に定住するようになりました。そして日本の敗戦によって60万人以上の日本国籍取得者と70万人の特別永住者が日本で暮らしていますが、今日でも「偏見」や「差別」の解消が課題となっています。私たちは「過去」に正面から向き合うことによって隣人との「誠信の交わり」とは何かを考えていきます。		企画展 「ウクライナの今」 7月5日(日)～9月13日(日) ロシアのウクライナへの侵攻は2022年2月24日にロシア連邦がウクライナに軍事侵襲して今年で5年目に突入します。これは第一次世界大戦より長く、約6年余りにわたった第二次世界大戦に次ぐ長い戦争になっています。この戦争を体験し、家族が離れ離れにされ長い間日本に避難してきているウクライナ出身のハンナさんの手記とウクライナの子どもたちが描いた絵を基に、一刻も早い戦争の終結と平和の構築について考えていきます。		企画展 「竹と生きる」 9月20日(日)～11月23日(月・祝) 部落差別と闘いながら生活し、文化を支えてきた人々の生き様や地域社会で果たしてきた役割を明らかにし、被差別部落の生活と文化に対する正しい理解と認識を深めていきます。		企画展 「2026ふくやま人権・平和ポスター展」 12月1日(火)～2027年1月17日(日) 戦後81年を迎えるにあたり、戦争の記憶を風化させることなく「平和の大切さ」を次世代に語り継ぐため、今だからこそ問われている一人ひとりの人権への思いをポスター作品として表現する作品を募集し、「人権週間」のイベントとして展示します。		企画展 「北海道における近代の学校とアイヌ民族」～沙流川流域を中心に～ 2027年1月24日(日)～3月28日(日) 北海道の近代化に伴い教育環境の整備が行われてきましたが、その裏では北海道旧土人保護法が制定され、アイヌと移住者の児童を分離した教育や、アイヌの児童に対する同化教育など差別を助長する政策がとられました。これに対して地域社会の指導者として活躍した貝澤ワタルトウらの活動に焦点を当て人々々が教育にかけた思いが今日どのような形で地域に受け継がれているかを紹介します。				
広島県立歴史博物館 TEL(084)931-2513 ふくやま草戸千軒ミュージアム 〒720-0067 福山市西町二丁目4番1号 ●開館時間／午前9時～午後5時（入館午後4時30分まで） ●休館日／月曜日（祝休日の場合、その翌日）・年末年始 ●入館料－常設展／一般320円（250円） 大学生230円（180円） ※（ ）内は20名以上の団体 ※企画展の入館料は別に定めます。 ※常設展は高校生までと65歳以上無料 ホームページ  Twitter 	春の展示 受け継がれる備後表 ー豊の歴史と今を探るー 4月17日(金)～6月14日(日) 備後地方は古くから、い草の生産が盛んで、江戸時代以降、この地域のい草を用いて作られる畳表は「備後表」と呼ばれ、最高級品として全国に知られていました。本展では、当館所蔵資料を中心に、備後表の歴史を紹介するとともに、現在行われている製作技術などの保存・継承に関する活動もあわせて紹介します。		夏の企画展 見て楽しい！日本の城づくり 7月17日(金)～9月6日(日) 日本が誇る文化遺産の代表格である「城」。なかでも近世城郭に見られる天守や御殿といった建築、そして石垣の迫力と美しさは、世界中の人々を魅了しています。本展では、城をめぐる多彩なテーマの中から「城づくり」を取り上げます。近世の城がどのように築かれたのか、実物資料を中心に、ビジュアルに分かりやすく紹介します。		秋の企画展 大本山佛通寺展 10月9日(金)～11月29日(日) 三原市に所在する佛通寺は、応永4年(1397)に小早川春平が愚中周及禪師(佛徳大通禪師)を招いて創建された、広島県を代表する臨済宗の古刹です。本展では、当館に寄託された佛通寺の貴重な文化財を中心に、佛通寺の歴史と文化について紹介します。		早春の展示 高校・考古コレクション展 ー高校生がひらく郷土の歴史ー 1月15日(金)～3月14日(日) 県内の高等学校で部活動などを通じて収集され、受け継がれてきた考古資料が当館に寄贈されています。本展では、府中高等学校・福山誠之館高等学校などが寄贈された考古コレクションを展示し、郷土の歴史をひもとくとともに、学校教育と考古学の関わりについても紹介します。						
通史展示室 「瀬戸内の歴史をたどる」(ミニ展示を2か月ごとに展示替え)・草戸千軒展示室「よみがえる草戸千軒」(通年展示)		4月26日(日) 5月1日(金)～6月21日(日)	6月27日(土)～8月23日(日) 菅茶山と当館収集の近世資料 城絵図と城下絵図	8月28日(金)～10月25日(日) 菅茶山の世界・守屋壽コレクション合同展示 備後名所刷版木と柄の浦	10月30日(金)～12月20日(日) 不屈の儒学者・門田朴斎 仏教と世界地図	1月2日(土)～2月28日(日) 菅茶山と「好古学」 西洋が伝えた近世日本	3月5日(金)～4月25日(日) 菅茶山の世界・守屋壽コレクション合同展示 菅茶山関係資料の保存修理と福山藩関係資料						